

編集後記

『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第八号をお届けいたします。今号の刊行にあたり、ご協力を賜った関係各位に厚く御礼申し上げます。

今号の内容は、文部科学省平成二四年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」プロジェクトの活動報告と、本センターが従来行なっていました活動の二〇一一年度の報告が中心になっています。〔なお今号は、文部科学省平成二四年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の補助によって刊行されます。〕

巻頭に、「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」プロジェクトについて」を掲載いたしました。このプロジェクトの意義をご理解いただけると考えております。

さらに、本プロジェクトの一環として行った、丸山眞男文庫所蔵未発表資料の翻刻、第一回研究会の報告概要を掲載し、プロジェクト初年度の活動の一端をご報告いたします。

未発表資料の翻刻と解説は、プロジェクトメンバーで、丸山眞男文庫協力の会の宮村治雄氏（成蹊大学教授）にご協力を仰ぎました。

第一回の研究会では、プロジェクトメンバーの、本学教授の安藤信廣氏、丸山眞男文庫顧問の平石直昭氏（帝京大学教授）にご報告をお願いいたしました。

その他、平石直昭氏が、東京大学情報学環附属社会情報研究センター事

業の共同研究会&記念シンポジウムで行った基調講演の記録を掲載いたしております。本センター附属丸山眞男文庫の立ち上げから現在に至る歩みを通観できる内容です。

本センターが従来行なっていました活動の二〇一一年度の報告として、丸山眞男文庫の整理・公開の報告、第一三回記念講演会の記録、本センターの公開授業「比較思想」（共通科目）ならびに読書会の報告が掲載されました。

二〇一一年度の記念講演には、政治学者・歴史学者で、二〇一一年度文化勲章を受章された三谷太一郎氏（東京大学名誉教授）をお招きし、「丸山眞男は戦後民主主義をいかに構想したか―「精神的貴族主義」と「少数者」との関連―」という題で講演して頂きました。お話は、明治憲法下の旧体制批判、とくに「重臣イデオロギー」批判、戦後の丸山眞男と維新後の福沢諭吉との共通性、戦後民主主義のヴィジョン、デモクラシーにおける「少数者」の概念の重要性、「戦前民主主義」の批判としての丸山の「戦後民主主義」と、その概念の今日的意味などにわたり、会場を埋めた聴衆は魅了されました。三谷氏は、丸山眞男に関する新たな見方を示し、その業績を再認識し、丸山眞男という人物をより深く理解する手立てを与えてくださいました。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

二〇一一年度も公開授業・読書会ともに、本学内外の受講者が多数集いました。本センターのこれらの活動が、東京女子大学における丸山眞男研

究と、それに連なる関連分野の研究に資するものとなり、さらに一層、社会に貢献していくことができますよう、関係者一同、祈念しております。

東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念
比較思想研究センター報告 第八号

二〇一三年三月八日発行

編集 大角翠

発行 東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺二-6-1

印刷 (株)丸井工文社